



総理府統計研修所のこと

昭和47年秋から昭和48年春まで、総理府統計研修所で研修を受講する機会が与えられた。

その研修の内容・思い出等を述べてみましょう。

① 研修所でのこと。

研修所は、総理府統計局の構内にあり、古い歴史を誇っている。以前は、「総理府統計職員養成所」と名付けられていたそうである。

研修生は、地方公共団体の職員（市を含む）が30名、半官半民の団体の職員（国民金融公庫等の職員）が5～6名、国家機関（本省、出先を含む）の職員が30名程であった。警視庁、県警本部、自衛隊からの研修生が数名いたが、仕事はコンピュータ関係のようであった。要するに研修生総数は、約65名であった。

講義の内容は、統計数理学が大半を占めている。が、その他、コンピュータ概論（ハード、ソフト共に）、国民経済計算、統計行政、家計物価、統計分類、人口統計、OR、経済計画、統計調査、統計グラフ等が主なものであった。

また、統計調査演習、統計解析演習が大きなウエイトを占めていた。今後は、この演習が、職場からの要請により、ますますウエイトアップされるものと思う。

講師は、統計局の課長、課長補佐、行政管理庁の統計審査官、経済企画庁経済研究所の各専門の課長、その他大学の教授であった。

それぞれの専門によって講義を行うから、かなりつつこんだものになっている。

② 寮でのこと。

寮は三軒茶屋にある。鉄筋3階建てで、私が入ったときは、新築なって間もないときであった。「統友寮」と名付けられている。収容人員は35名程度で、男子のみである。

夜になると、酒・マージャン愛好家に支配される。

先に述べたように、講義は、統計数理学が主体となるの

で、予習・復習が当然この科目に傾く。私のように文科系出身の者（これが多いのであるが）にとってはまさに地獄である。しかし、そこはよくしたもので——寮生の特権ともいえようが——大学の理学部出身の人が3～4人おり、この人たちに大いに世話になった。

統計実務担当者の理科系出身の人の仕事は、解析（コンピュータによる）であったようである。（上沢）



昭和48年3月「統友寮」玄関にて
左から3人目が筆者、犬はデゴイチ

統計研修所での研修には、次の3つがあります。

- ① 6ヵ月研修……県、または公共企業体など政府関係機関の職員を主とする。定員に余裕があれば市町村職員も可。
- ② 専科研修……5週間コース。市町村の職員を主とする。余裕があれば県職員も可。
- ③ 係長研修……1ヵ月コース。県、政府機関の係長クラスの役職にある職員。

くわしくは下記までお問い合わせください。

茨城県企画部統計課企画調整係

（水戸市三の丸1-5-38）

TEL.0292-21-8111 内線420